

早春の成田山

金子美幸（山武市）

日 時：2019年2月24日（日）9：30～12：00 天気：晴れ

参 加 者：市民26名（うち子ども1名）

担当指導員：晝間初枝、水野和年、莊子淑子、金子美幸、参加指導員計7名

成田市環境計画課：4名

コース：JR成田駅⇒お不動様旧跡庭園⇒薬師堂⇒釈迦堂⇒成田山公園⇒本堂脇

「自然保護1・2月号」の特集で日本人の自然観と日本の風景文化について興味深く読んだ直後であり、久しぶりの成田山と庭園の観察にワクワクして参加させていただいた。春の陽光に包まれた成田駅前には私と同様に成田山の新しい魅力を見つけようと期待いっぱいの市民が集まった。

おなじみ米屋さん裏のお不動様旧跡庭園と薬師堂に寄ってから参道を外れて脇道へ。僧侶たちの学びの場である三学院が並ぶ道を歩く。ここは静かでクスノキの大木や塀沿いに並ぶシキミが印象的だ。姿は見えないがシジュウカラの声が聞こえた。出世稲荷の先から成田山の全貌や遠くには筑波山を望み（当日は残念ながら見えず）、境内へ。前本堂である釈迦堂前では釈迦にちなんで植栽されたシャラの木と菩提樹を観察。遠目にキンカンのように見えたフクレミカンみんなで側に寄って見ると小さな実が確かにみかんの形だった。

団十郎ゆかりの額堂を見てからいよいよ庭園へと降りた。自然石を使った階段は足元が悪いので十分注意してもらうよう声をかけた。雄飛の滝と洗心堂の辺りはひんやりと湿り気がありコケやシダ植物が目立つ環境。「野草がちっとも見られない」などの声も聞こえたが、古木に着生するウメノキゴケやノキシノブなどを観察しながらここならではの自然環境と植物の関係を指導員が解説した。日当たりの良い梅園は梅見客がいっぱいで、「一回りして見ますか」と声をかけても参加者は気乗りしない様子。むしろ池沿いを歩きながら指導員が解説するコウヨウザンやヨウラクランなどの普段あまり見られない植物の観察に興味津々だった。水琴窟付近で一休みして中国渡来の白松を観察。近くにある黒松や赤松との違いを確認した。

後半は池の対岸の丘をトウカエデやイチョウなどの大木を観察しながら登り、丘の上の由緒ある石碑や梅林を楽しみながら本堂脇へ降りて観察会を終了した。参加者からは「何回も来ているが新しい発見がいっぱいだった」「歴史と自然の話が両方聞けてよかった」と感想をいただいた。次に家族や友人と成田山を訪れた時、きっと今日の発見と感動を伝えてくれるだろう。



日本では沙羅双樹はナツツバキです 大きな岩が苔むしていました